

## マニフェスト

私たちは、戦禍に巻き込まれた人をひとりの市民として支援する人たちを支えます。

「支援する人たちを支援すること」が私たちの目的です。

彼らは、大きな組織に属さず個人として行動し、草の根のネットワークやコミュニティと連携しながら支援活動を展開しています。

そして、豊かな資金や豊富な人材を抱えるわけではなく、現場での作業に忙殺されていて、「これをしてもらったら助かるのに」「お金があれば解決できるのに」という悩みや、「一体これからどうなってしまうんだろう」という不安を感じています。

しかし、彼らと同じようにひとりの市民として支援の後押しをすることができたらどうでしょう？

「支援する人たちを支援する」ことを通じて、苦しみ傷つき困難の最中にいる人たちの助けになることができるとしたら？

国・言語・文化・慣習・信仰を越えて、お互いに助け合い支え合うネットワークを世界中に広げられるとしたら、どんな世界を創り出すことができるでしょうか？

「自分には何もできることがない」と諦めたり、傷ついた人がいることをわかっていながら対岸の火事として横目で見るとはならず、「自分にもできることがある」と行動し、同じような気持ちでいる仲間たちと連帯することで、武力や暴力によって傷つけられたこの世界の調和とバランスを取り戻すことができます。

私たちが他と異なるのは、個人の意思が尊重されるフラットでオープンな組織で、少しずつ力を持ち寄り、支援活動をする人たちのニーズに応じた活動をするところです。

そして、また、特定の国家・思想・信仰に偏らず、何事にも柔軟に対応し、試行錯誤を歓迎し、常にユーモアと明るさを忘れません。

私たちは、どんな理由があれ、尊厳を奪われてはならず、武力と暴力ではなく対話を通じて問題を解決していかなければならないこと、また、ひとりの小さな力も連帯を通じて大きなエネルギーや希望を生み出すことを信じています。

そして、これらを通じて、私たちはChange everything with love (愛ですべてを変えること) を約束します。

## 「支援する人たちを支援する」活動 WDRACに参加してください

いろいろな参加方法があります。

### 【1】活動に参加する

WDRACは現地で支援する人を日本から支援します。ほとんどの活動はオンラインです。

### 【2】寄付で参加する

WDRACを通して海外の支援活動に直接ご支援いただけます。

### 【3】WDRACの活動を広める

WDRACの発信する情報を#WDRAC付きで人に伝えてください。

その他ご協力のお問い合わせは、メールにてお問い合わせください。

いただいたご寄付は、現地にいるWDRACの支援者の活動費として使われます。WDRACのウェブサイトでは、現地で活動する彼らの最新情報を紹介していきます。ぜひ、彼らの活動を見守り、応援してください。なお、いただいたご寄付のうち約7%を上限として、WDRACの運営費用に充てさせていただきます。今後も私たちの活動にご理解・ご協力をよろしくお願いたします。

We support  
those who support.

支援する人たちを支援する。



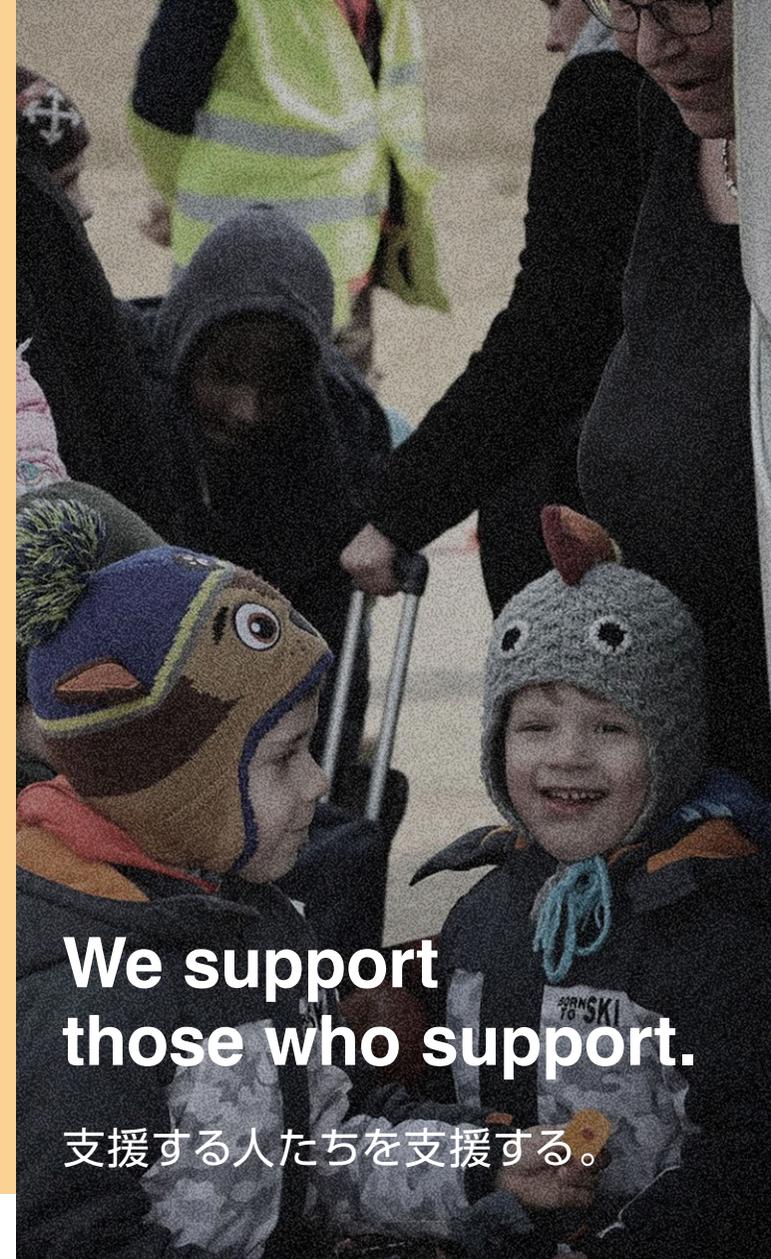
WDRAC  
War Disaster Reconstruction  
Assistance Center

一般社団法人  
戦災復興支援センター

WEB <http://wdrac.org>  
MAIL [contact@wdrac.org](mailto:contact@wdrac.org)



一般社団法人  
戦災復興支援センター  
War Disaster Reconstruction Assistance Center



## 私たちが支援する主な支援者たち



### Michaela Bostelmann

ミカエラ・ボステルマンさん (写真右)

ウクライナ国境に逃げてきた難民を、希望の場所にボランティアで送り届けている大型バスドライバー。一度の往復に合わせて50万円程度の資金が必要でその資金は現在、所属会社や個人での支援でまかなっている。



### Simon Massey

サイモン・マッシーさん (写真左)

今回の侵攻が起こったことを知り、イギリスから単身でポーランド国境の町・メディカへ。自身は車中泊をしながら、難民のため必要な物資や環境を手配している。その費用は個人からの支援のみ、という状態。



### Patricia Kudo

パトリッチャ・クドーさん

ルーマニア第二の都市・クルージュ=ナポカ在住。異文化交流NGOで有志の仲間と難民のための物資を集めたり、一時滞在場所を探したり、生活の基盤を作る活動しており、その活動資金は寄付や有志からの善意のみ。

今後も支援者は増えていく予定です。詳細はWEBをご覧ください。

## 私にとってのWDRAC



### 山口明香 (24歳・女性)

ひとりで動いてみても何も出来ず、自分の無力さを痛感していたときにWDRACのことを知りました。ひとりでは無理でもチームの1になって力を合わせることで、出来ることが何倍にもなる、と思っています。



### 黒崎優香 (24歳・女性)

自分にできることはあるのだろうかとも思いましたし、その明確な答えを見つけることはできませんでした。でもこのまま何もしないで終わるのだけは嫌だと思った自分がいたので参加をさせてもらいました。



### 長谷川恵一 (62歳・男性)

自分が望む世界を、自分の力で作り出したいからです。理想は争いなんか起きない世界です。でも、もし起きても、誰でも手を貸す事は出来るはず。そんな思いをWDRACなら実現できると思ったからです。



### 藤森隆 (45歳・男性)

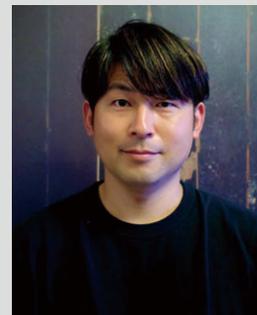
争いの悲惨さは、ウクライナ難民だけではなく、ロシア・隣国の人々にも広がっていく…それを想像すると絶望感だけが広がりますが、誰もが何か助けになることが出来る、そんな希望をもって参加することにしました。

## 団体概要

名称	一般社団法人 戦災復興支援センター War Disaster Reconstruction Assistance Center (WDRAC)
代表者	代表理事 長尾 彰
アドバイザー	鈴木 寛 (東京大学教授、慶應義塾大学教授、社会創発塾塾長)
所在地	東京都世田谷区
設立	2022年3月25日
目的	日本国内において、国際紛争に伴う被害の復旧・復興を支援している個人及び団体と、紛争当事国から国外へ避難する者を支援する団体及びボランティア・グループの支援を目的とする。
活動内容	上記目的を達成するため、次の事業を行う。 1.国際紛争に関する情報収集及び、必要な情報の発信 2.支援対象者の選定及び、対象者への直接的支援 3.支援を行うための募金 4.その他目的を達成するために必要な事業

### 一般社団法人 戦災復興支援センター(WDRAC)

#### 代表理事 長尾 彰



組織開発ファシリテーター。株式会社ナガオ考務店代表取締役、学校法人茂栄学園大日向小学校理事。東日本大震災から10年間、一般社団法人プロジェクト結コンソーシアム理事長を務め、石巻を中心とした東北復興支援を行う。

著書に『宇宙兄弟「完璧なリーダー」は、もういない。』『宇宙兄弟 今いる仲間、もうまくいく チームの話』(学研プラス)がある。